

第47回東海村地域福祉計画推進会議 議 事 録

- 1 日 時 平成30年9月28日(金) 午後5時30分～7時30分
- 2 場 所 205会議室
- 3 出席者 ・地域福祉計画推進会議委員(別紙名簿のとおり)
・アドバイザー 稲垣美加子先生(淑徳大学教授)
・事務局 山口補佐, 渡邊係長, 小原澤主任, 大平主任, 石川

結 果 (要点)

- (1) 前回議事録の確認について
- ・事務局から, 前回議事録について確認を行った。
- (2) 第3次東海村地域福祉計画 住民評価(中間評価)の勉強会について
- ・住民評価の流れについて資料1～7を基に, 事務局から説明を行った。また, アドバイザー及び各委員から以下の助言・意見があった。
 - ・村の地域福祉計画と村社協の地域福祉活動計画の役割の違いについて, 分かりやすく説明する必要がある。具体的には, ある一つの事業に対して行政が方向性を示したことに對して, 村社協は行政の意向を受け止めて, 村民と一緒に参加できるようなプログラムやイベントを計画するといったことだ。これに對して, 村側は, 村社協が計画した活動について, 広報活動を支援するといった説明が必要になる。
 - ・住民評価について, 評価者が関わった事業に関しては, 事業内容を理解しているので評価する事ができるが, 関わったことがない事業を評価することは難しいので, 会議の中で出た他の人の意見を共有した上で, 評価を行うことも必要だ。
 - ・若い世代の人達は, 広報紙や回覧板を見る機会が少なく, 地域の活動について知らない事が多いので, 学校の授業の一環で広報紙を読む時間を設けたり, 社協だよりや広報紙, 村社協のパンフレットを郵送して, 読んでもらいたい。
 - ・次回会議までに, 評価シートを事前に各委員に郵送する。次回会議では, 評価シートを基に, 不明な点を解消し, 2月の最終会議(中間評価)に向けて準備をする。
- (3) その他
- ・次回会議は, 平成30年12月18日(火)午後5時30分から開催することになった。

1 開 会

2 事務局あいさつ（省略）

3 委員長ごあいさつ（黒澤 達 委員長）

皆さんこんばんは。前回の会議は6月末に行ったが、今年はこれまでに様々な大規模災害が発生した。今週は、台風24号が迫っている。大規模災害は従来の常識が通用しないので、十分な備えをして対策をしておくべきである。本日もよろしくお願ひしたい。

4 アドバイザーごあいさつ（稲垣 美加子 先生）

皆さんこんばんは。村社協の皆さんは知っていると思うが、私が災害支援を始めようと思ったきっかけは、半世紀前に起きた阪神淡路大震災である。数十年前のことなので、この場にいる学生は知らないと思う。当時は、仕事を辞めたばかりであった。恩師が東京のボランティアセンターの所長をしており、所長に勧められて災害支援ボランティアを始めた。これを機に、学生や社協の人と一緒に災害の場に直接行き、様々なことを学んだ。今年も学生を連れて災害支援に行った際、台風21号の被害に遭った。災害支援の勉強に行ったのに、こちらが被災してしまった。7年前の東日本大震災時には、役場近くのカスミで水や食糧を求める人が大勢いた。東海村の災害対応の中で、火を起こしたり、井戸の水を皆で分け合うといった、村民の暖かさを感じた。これは東海村の文化と力強さの中で培われたものである。古い考え方や文化を大切にしつつ、新しい災害対策に取り組んでいかなければならない。災害を無くすことはできないが、減災することはできるので、皆さんと一緒に考えていきたい。本日はよろしくお願ひしたい。

5 議 事

（1）前回議事録の確認について

事務局から、結果（要点）の説明を行った。

質疑応答なし

（2）第3次東海村地域福祉計画 住民評価（中間評価）の勉強会について

事務局から、配付資料に沿って説明を行った。

【補足説明】

稲垣先生：今年度行う住民評価について説明するが、行政が評価したことを、再度住民が評価する理由は、行政サービスは、村民のニーズに合ったサービスを提供しなければならないからである。行政は、村民が住みやすいまちづくりをしていかなければならない。行政は様々な支援を行っているが、それが村民にとって必要なものなのか、あるいは東海村の長所を活かしているのかを評価することが重要である。行政側が筋道を立てて、それを達成できたのかを評価をするだけでは村民にとっては不十分であり、住民評価を行い、行政側と村民側で相違がないようにしていく必要がある。災害対策でも、東海村らしさを活かすことができているのかが重要になってくる。村のまちづくりについては、今まで行政任せであったが、行政サービスや村の計画づくりが村民の心の中にどの程度納得した形で残っているのか、また、若い世代の人が、今までどのくらい地域の在り方を考えてきたのか。村の地域福祉計画を通じて、自分達の地域のことを自分達で何とかしようという気持ちがどのくらい積み上げられてきたのかが、今後の東海村のまちづくりには必

要になる。地域活動の役割を担っていた方の仕事を、これまで地域活動に関わってこなかった人達が、積極的に、我が事として、どの程度考えることができるようになったのかを評価する。そのためには、もっと村に「こんな活動をしてほしい」という声を挙げていただいて、村民が村の活動に積極的に参画していかなければならない。若い世代の人達は、これまで自分に割いていた時間を、少しの時間でも良いので、地域づくりのために捻出していただきたい。そうすることで、最終的なパートナーシップゴールが見えてくると思う。

事務局：今日は住民評価の練習をする。計画の進行管理については、先程、稲垣先生に説明をいただいたとおりだ。ここからは評価の具体的な方法について説明する。

※以下練習方法を説明

- ・時間の都合上、資料4の1-1について練習を行う。評価シートは、資料5の右下に記入箇所がある。平成28、29年度の結果を基に評価をしていただきたい。資料4の1-1については、行政評価はAである。

【質疑応答】

委員：村の活動と村社協の活動の兼ね合いは非常に難しい。説明を聞いたり、資料を読んだりしても施策の実施主体が村にあるのか、それとも村社協にあるのか分からない。

委員：村の地域福祉計画と村社協の地域福祉活動計画の違いだが、村社協の地域福祉活動計画は、村の地域福祉計画のアクションプランを担っているので、村の地域福祉計画の中に、村社協の事業が入っている部分もある。村が行った部分と村社協が行った部分を、きちんと分けて評価したい。

稲垣先生：村の役割と村社協の役割をお互いにきちんと説明できると良いと思う。例えば、ある事業に対して、村が方向性を示したことを村社協は受け止めて、村社協として、住民と協働して行動を起こすことができるようなプログラムを作ったりイベントを計画したりする。村は村社協が計画した活動の実現性を高めるために、例えば「村社協が行っている事業の広報活動について支援した」などの説明ができると良い。現状では、村と村社協がお互いに説明責任を果たせていないので、どちらの機関が主体的に活動を行っているか分からない。両機関が互いに自分たちの役割を説明できないといけない。

委員：評価の項目だが、例えば、資料5の右上に記載がある「東海村地域福祉計画子ども版」だが、この作成に私は関わっていて事業内容も理解しているので、評価できる。

稲垣先生：タスクゴールの評価が低い場合でも、その事業に各委員が参画しているのならプロセスゴール・パートナーシップゴールについては高く評価できる。

委員：「東海村地域福祉計画子ども版」など、各事業に関わった人達は、内容を良く理解しているので住民評価ができるかもしれないが、事業に関わっていない人達には難しい。事業に関わっていない人たちがどのような評価をするのかが重要だと思う。具体的には、資料5の1-1-2、1-1-3については、村社協、地区社協が行っている事業でもあるので、住民評価の立場でいうと、どのように評価したら良いのか分からない。

稲垣先生：そのために合議が必要である。事業について知らない人もいると思うので、皆が意見を出し合うことで、その事業について知ることができる。委員の皆様には、合議した結果を周りの村民に伝えて欲しい。村民に伝えることで、推進委員以外の村民の意見や評価も集約することができる。このような会議に学生も参加して

いるので、若い世代の評価も聞くことができる。家族や友達、インターネット等を利用して、周りに積極的に情報を発信することが大切である。そして、村社協、地区社協がこんなに活動しているので、行政にはこのような取り組みをして欲しい、役割を担って欲しいといった声を村民の方々に挙げていただきたい。

委員：行政評価を見ると、実績として、「活動に参加した」「啓発活動を行った」「アンケートを実施した」などとあるが、これだけで評価するのは難しい。

稲垣先生：行政が評価して、更に住民が評価をするので、合議をして評価のすり合わせをする必要がある。そして、その評価が最終評価になれば、良い結果になり、次に繋げることができる。

委員：住民座談会は、自治会加入者全員を対象に回覧板を送って参加者を募集しているが、回覧板を見ていない人は参加できない。若い世代の人が見る機会はほとんどないと思う。住民座談会の結果は、村社協に報告して、「社協だより」に結果を掲載している。

委員：若い人は回覧板を読む機会はあるのか。

委員：回覧板がいつ回って来たのか分からないまま、次の家に親が回してしまう。

稲垣先生：回覧板以外では、どのような情報に興味を持つのか。

委員：コミセンに広報紙や様々なパンフレット、チラシが置いてある。

委員：コミセンには、村に関する様々なチラシやポスターが貼ってあるが、自分が探しているものがどこにあるのか分からない。資料が沢山あり過ぎるのも問題だと思う。

委員：文化センターにも様々なパンフレットがあるが、あまり見る機会がない。施設によっては、チラシの上に更に別のチラシが並べてあるところがある。これでは見る気は失せてしまう。

委員：私は、村の青年会に所属しているが、自分達が主体的に活動している事業の記事に関しては積極的に見るようにしている。また、他の団体がどのような記事を掲載しているのかを参考に見ている。

委員：「社協だより」に、住民座談会の結果も掲載している。結果だけでなく、座談会で村民から出た意見を集約して、掲載するようにしている。若い世代の人にもぜひ見ていただきたい。

稲垣先生：それだけでは不十分である。「これだけ地域のために良いことをやっている」というだけでは意味がない。実際に、若い世代は見していない。若い世代にも村や村社協、地区社協の活動について知ってもらえるような仕組みづくりをしていく必要がある。また、村はその手助けをしていかなければならない。

委員：地域活動に関わっている人たちは、同じ人がいくつも掛け持ちをしている状況である。

委員：現役世代にやってもらいたい気持ちはあるが、仕事や家庭の都合から活動に参加できない人が多いので、なかなか参加してもらうのは難しい。

委員：難しいと思うが、「社協だより」や「広報とうかい」は読んで欲しい。

委員：学校教育の場で地域のことを考える時間を作ったほうが良い。例えば、月に一回「広報とうかい」を見る時間を設けるといった、教育機関との協働が重要になる。保護者が強制するのではなく、学校側でそのような機会を設けるべきだ。

委員：学校側も忙しいので、そのような時間を設けることは難しいと思う。

稲垣先生：鈴木委員が、自分が関わっている団体の記事を見ていると言ったが、とても良い

ことだと思う。「社協だより」等で若い世代が活動している記事を掲載するスペースを設けるべきだと思う。また、学校側にも、地域福祉に関心を持ってもらわないといけない。地域が廃れたら、子どもたちの未来もないと思う。安心・安全な環境づくりをしていくことは、未来の子どもたちのためでもあるので、教育委員会に働きかけていく必要がある。また、どうすれば学校に負担をかけずに済むのか、学校が参画しやすい方法を考えていく必要がある。

委員：子育て世代はとても負担が多い。子ども会、自治会等にはなるべく関わりたくないというのが本音である。親を介さずに、子どもに直接働きかける方が良いと思う。例えば、東海まつりややったん祭など、子どもが友達同士で集まる場所に出て行き、広報活動をしたり、ゲームを取り入れて、地域福祉について学ぶなどした方が、子どもも理解できるのではないか。

稲垣先生：子育て世代は大変である。「サロン」のような子育て世代が過ごしやすい居場所づくりが必要になってくる。子育て世代のために居場所づくりをすることによって、子育てに対する負担を軽減してもらうことができる。そして、子育て世代が地域で活躍できる機会を行政や村社協が提供し、実際に地域活動に参加してもらうことで、地域活動について知ることができるので、積極的に居場所づくりや子育てについての相談の場を設けていく必要がある。

委員：村社協には、「高齢者センター」や「児童センター」についての、様々なパンフレットがあるが、若い世代に郵送して、情報を提供していくのはどうか。見る機会を作ることによって、得られることも多いと思う。情報を発信していかないと、住民の意見や評価を集約することができないと思う。

稲垣先生：自由に議論し、それぞれの立場から様々な意見が出たので、改善の余地がある。タスクゴールはそこまで高くならないと思うが、住民がこれだけ意見を言えることは良い。プロセスゴールとパートナーシップゴールは高く評価して良いと思う。今日の会議で印象に残ったことを評価シートに書いてもらう。

事務局：各委員から、様々な意見をいただくことができた。平成28年度から平成32年度の5年間の総合評価に向けての課題も本日の会議で挙がったので、評価シートに意見を書いてもらいたい。次回会議は、事前に評価シートを16枚程、各委員に送るつもりである。その際に、不明な点を解消して評価をし、年明け2月位に最終結果を出すつもりである。

委員：先程の意見交換はとても良かった。報告を受けたもののみで評価するのは難しいため、意見が活発に出て皆で共有できたことは良かった。

事務局：平成28、29年度は村が評価したものを報告するやり方のみであったため、分かりづらかった。12月の委員会では、事前に送った村の評価を基に議論をして、評価してもらうのが良いと考えている。

委員：東海村には、112のボランティア団体がある。そのボランティア団体の活動内容をまとめたリストのようなものがあれば良いと思う。若い世代にも必要である。

委員：ボランティア団体をリスト化したものは、村社協のホームページに掲載しているが、ホームページを見やすくしたり、調べたい活動内容についてアクセスしやすくしていく必要があるので、今後検討していくつもりである。

※約10分間、評価シートに記載する時間を設け、各委員の評価を集計した結果、住民評価は「A」となった。

6 その他

- ・次回会議は、平成30年12月18日（火）17時30分からに決定。

7 閉 会